

『BE WOLF CAMP 2023』

活動報告

◆『BE WOLF CAMP』とは…

参加者がオオカミ(次世代のリーダー像)にふんして、森の中で群れ(チーム)に分かれて行動し、群れ同士の対戦や狩り(課題遂行)をする体験を通じて、「生態系型のリーダーシップ」を思考だけでなく身体感覚をフルに使って身につけるという、非常に珍しいリーダーシップ開発のプログラムです。

◆生態系型のリーダーシップとは…

今までの組織の在り方は、例えるなら「機械型」でしたが、目まぐるしく変化し未来の予測が難しい VUCA の時代に求められる組織の在り方は「生態系」だと言われています。機械のように決まりきったヒエラルキーやルール、業務の役割、既定の計画に沿ってはいは対応できない時代に私たちは生きています。『BE WOLF CAMP』では、生態系型リーダーの象徴として「オオカミ」の在り方をテーマにプログラムが作られています。

◆なぜオオカミなのか？

『BE WOLF CAMP』は、ネイティブアメリカンと共に暮らし、その叡智を基に様々なプログラムを展開しているマザーアースエデュケーション代表 松木 正さんのプログラムです。

ネイティブアメリカンは、大自然の中で狩りをしながら生活をしていました。そんな彼らが最も尊敬し、師として崇めていた存在がオオカミでした。オオカミは「地球上で最も社会性があり、共感力が高い動物」といわれているそうです。

体重 50kg ほどの北米オオカミは 5~8 頭の群れを作り、体重1トン以上で馬より早く走るバイソンを仕留めまます。瞬時に変化していく戦局を判断し、一頭一頭が連携しながら阿吽の呼吸で動き、自分たちより何倍も大きい獲物をチームプレーで狩ります。人間社会のように頭で考えて、計画を立てて、組織を動かし、また計画を修正して……というマネジメントでは獲物は逃げてしまいます。

狩りにおいて、オオカミ組織の意思決定がどのように行われているのか？ そのカギとなるのが、オオカミの 4 つの生きる力と言われている「コミュニケーション」「個性の尊重」「チームワーク」「忍耐」です。『BE WOLF CAMP』では、森の中で大人たちが本気でオオカミになりきり、4 つの生きる力を自覚しながら狩り(課題遂行)を体験することで、リーダーシップやチームプレーの本質を学びました。

今後の取り組みについて

『BE WOLF CAMP』は、森の中でオオカミのように群れ(チーム)をつくり、仲間とコミュニケーションしながら、別の群れと戦って狩りをします。

私が獲物を奪い合った相手のチームは、リーダーシップ溢れる男性を中心に自然と連帯感が生まれているような理想的なチームでした。それに対して、私のチーム(7人)は、THEリーダーというタイプの人がおらず、戦略ミーティングでも、どうする！どうする？……と意見がまとまらないまま狩りがスタートし、惨敗の状況が続きました。チームとしての連携がうまく取れない中で、だんだんメンバーのモチベーションも下がり、チーム内にはどんよりとした重い空気が漂っていました。

狩りを成功させるためのチームの課題は見えてきたものの、どう改善すればいいのか？そこにはお互いの意見の相違や感覚の噛み合わなさのようなものがあり、他者に対する苛立ちや、このメンバーじゃ無理かも……という諦めの空気も漂いはじめていました。まさに、オオカミの4つの生きる力である「コミュニケーション」「個性の尊重」「チームワーク」「忍耐」を試されていた時間でした。

メンバーへの諦めや苛立ち、こうしたネガティブ感情は、多くの組織においてはタブー視され、取り扱われず無かったことにしがちですが、このチームでは、その感情を丁寧に拾い上げ、メンバー全員で共有し味わいました。その過程で見えてきたのは、ネガティブな感情の奥にある願いや希望の言葉でした。感情や衝動をさらけ出して対話する中で、上っ面のチームワークではなく、腹の奥で繋がれたような感覚がありました。

『BE WOLF CAMP』のサブタイトルには、こんな言葉が書いてあります。

自分と群れ(チーム)を信じて生きる あるオオカミの小さな冒険ものがたり

このプログラムの中で一番学んだことは、「自分に対する信頼と仲間に対する信頼」の大切さと難しさ。あの腹の奥で繋がったような感覚は、メンバーに対する信頼が生まれた瞬間だったのかもしれない。

さて日常に戻り、私は一緒に仕事をしている長岡編集部、そしてコパスの仲間たちを信頼しているだろうか？日々の業務を効率よくこなす方法ばかりを考え、自分自身や仲間に対する「信頼」なんて深く考えたことがありませんでした。

コパス大改革の真っ只中で、「自分に対する信頼と仲間に対する信頼」は、とても重要なテーマだと感じています。「コミュニケーション」「個性の尊重」「チームワーク」「忍耐」、このオオカミの4つの生きる力を自覚しながら、時にはコパスに漂うネガティブな感情も拾い上げ、その奥にある「願い」や「希望」を大切に読み解き、コパスが前進するチカラに変えていけたらと思っています。